

長野県丸子修学館高等学校の教

丸子修学館高と東京農大が 教育協力協定 人材育成目指して

丸子修学館高校と東京農大
農業大学国際食料情報学

部食料環境経済学科が教育
協力で提携する協定の調印



式が2日、関係者を集めて長和町の長門庁舎で行われました。

同大学は08年、文部科学省の支援事業「質の高い大学教育推進プログラム」の「地域再生・活性化の担い手育成教育」プロジェクトを同町出身の立岩寿一

教授が中心となつて実践し、今年度も活動を進めています。内容は、遊休荒廃農地の草刈り・楮の苗植え・獣害防除柵の設置・おやき作り・信州霧山タツタンそば打ちなどの実習で、山村再生と地域活性化を担う人材の育成を目指しています。

また、同高校も実業教育を柱として地域を担う幅広い人材を育成することを目標にしていることから、双方の理念が一致。同高校が卒業生でもある立岩教授を通じて大学に働きかけて協

定締結となりました。調印式では、同校の大日方悦夫校長が「大学生と同じフィールドに立ち、交流のなかで成長し合えることは画期的」とあいさつ。協定書には「教育実習生・生徒の授業の受け入れ」「調査研究協力」などが盛り込まれ、山村再生プロジェクトには同校で農業科目を選択する生徒が参加する予定。加えて同校が交流する地元の小・高・大学生の交流も予定されています。